

ADHD（注意欠如・多動症）って??



ADHD（注意欠如・多動症）は「多動性・衝動性」と「不注意」の大きく分けて2つの様子が見られるものです。具体的な様子は次の表の通りです。

ADHDの2つの特徴	
<p>(多動性・衝動性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中落ち着かなく、席を立つ。座っていてももじもじ落ち着かない。 走り回ったり、よじ登ったりと動きが激しく、じっとしていることが難しい。 遊びの時、騒ぎすぎたり、しゃべりすぎたりする。 列に並んだり、ゲームの順番を待ったりすることが苦手。 突発的な動きや発言が多い。 	<p>(不注意)</p> <ul style="list-style-type: none"> テストでうっかりミスが多い。 活動中、気が散りやすくぼーっとする。 課題等を計画的にすることが難しい。 片付けが苦手。 落とし物、失くし物、忘れ物が多い。 遅刻が多い。 言われたことをすぐに忘れる。

(日本精神神経学会 HP より作成)

この2つの特徴的な様子から、「できない子」や「ふざけている子」と誤解され、叱られる経験を積みやすいため、不安やうつといったいわゆる二次障害が見られたり、大人への反抗や非行、反社会的行動につながったりしてしまふことがあります。

二次障害につながらないようにするためにも、支援においては、「否定的な注目」ではなく、「**肯定的な注目**」が求められます(下図)。また、教育場面に限らず、お家での言葉かけを意識してもらえるとさらによりよいサポートにつながっていきます。

子どもの行動	肯定的な注目 (好ましい行動が強化される)	否定的な注目 (好ましい行動が強化されず、好ましくない行動が続く)
①しばらくテレビを見た後に、家の手伝いをした。	「手伝ってくれてありがとう。」	「なぜもっと早く手伝わないの。」
②ゲームを長くやった後でようやく宿題を始めた。	「宿題を頑張ってるね。」 「あとでおやつをあげるね。」	「いつまでもゲームばかりやって。いつもだらだらしているんだから。」
③ふざけていて食器を割ってしまい、しばらく言い訳をしていたが、最後にしつこく「ごめんなさい」と言った。	「ごめんなさいが言えたね。」 「そんな風に言ってくると、お母さんはすごくうれしいよ。」	「なによ、その態度は。もっとちゃんと心を込めてあやまりなさい。」
④人ごみの中を先に先にと行ってしまい、ちょっと離れたところで親を待っていた。	「ちゃんと待ってくれたね。」 「いっしょにゆっくり歩こうね。」	「いったいどこに行ってたの。先に行ったらダメじゃないの。」 「もうあんたのことは知らんからね。」

(日本精神神経学会 HP より転載)